

《ワンポイント・レクチャー》

AFFIRM Studyをどのように捉えるのかー心房細動の治療戦略

小池城司(循環器内科・助手)

心房細動(Atrial fibrillation: Af)は日常の診療で期外収縮に次いで多く接する不整脈である。発症は約2%であるが、高齢になるほど高くなるため、それ以上発症しているのではと感じられる。その原因としてかつては心臓弁膜症(特に僧帽弁疾患)に合併するものが多かったが、最近では非弁膜症性の心房細動が大部分を占めるようになってきた。

これまで心房細動は発作性心房細動(paroxysmal Af: 自然に洞調律へ復帰するもの)と慢性心房細動(chronic Af: 洞調律へ復帰しないもの)に分類されていたが、最近では**発作性心房細動**(paroxysmal Af: 自然に洞調律へ復帰するもの)、**持続性心房細動**(persistent Af: 洞調律へ復帰しないが、それが1年以内のもの)および**永続性心房細動**(permanent af: 1年以上持続するもの)に分類されている。

永続性心房細動の治療については、心拍数コントロールおよび抗凝固療法を行なうことが確立されているが、日常診療では発作性および持続性心房細動の対して、どのように洞調律維持を行なうか苦慮することが多く、それに対しては1群抗不整脈薬を中心とした薬物療法が選択されている。

最近米国からこのような心房細動の治療に対する大規模臨床試験“**AFFIRM Study**”の第一報が報告された(N.Eng.J.Med. 347: 1825-1833)。これは発作性および持続性心房細動患者を洞調律維持を行なう群と心拍数コントロールを行なう群に分けて経過を見たものである。結果は驚くことにこの二群間で総死亡や心血管イベントの発生に差がないというもので、洞調律維持の必要はないというものであった。

ただ、この試験は患者の選択に問題があることや、洞調律に用いられた薬剤が我が国と違いIII群薬が中心であったことより、すぐにこの結果を日常の診療に当てはめる必要はないと思われる。今後我が国の心房細動治療の実情に沿った“**J-RHYTHM**”という試験が日本心電学会主導で行なわれることになっており、その結果が待たれるところである。

AFFIRM Studyの結果でぜひ注目しなければいけないことは抗凝固療法の重要性であり、今後ほどのタイプの心房細動でもより積極的に抗凝固療法を行なっていく必要があると考える。

第67回日本循環器学会総会・学術集会のご案内

竹下彰会長のもと、本年3月28(金)～30日(日)の3日間、第67回日本循環器学会総会・学術集会を開催いたします。

会場は、福岡サンパレスおよび今春オープンします福岡国際会議場を主会場とし、これに、国際センター、マリンメッセの計4会場を使用します。今回は、4年に一度の医学会総会の年に当たり、日本循環器学会・日本内科学会・医学会総会が同じ会場で連続して開催されることになっております。

学術集会の内容は、2200題近く的一般演題に加え、6つのプレナリセッション、12のシンポジウム、5つの海外の学会とのジョイントシンポジウム、7つのトピックスのセッションなどを企画しております。また、実地医家の先生向けに、毎日午後1時に教育セッションを開催する他、臨床の現場で意見が分かれている問題について討議するコントロールセッションを6つ、実地臨床のコツについて解説するミートザエキスパートを8つ、ハウツーものとして17のモーニングレクチャーを企画しました。詳細は、学会のホームページ(<http://www.congre.co.jp/jcs67/>)をご覧ください。臨床・基礎の両面から、循環器病学の最新の知見について広くご紹介する機会にしたいと、教室員一同、準備に取り組んでおります。

多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

事務局長:下川宏明

市民公開講座 1

テーマ: **老いをいかに健やかに生きるか**

日程: 平成15年3月23日(日)午後1時

会場: アクロス福岡シンフォニーホール

講師: 日野原重明先生、尾前照雄先生ほか

市民公開講座 2

テーマ: **命を考える(仮)**

日程: 平成15年3月25日(火)午後1時

会場: アクロス福岡イベントホール

市民公開講座 3

テーマ: **心肺蘇生があなたのいのちを救う**

日程: 平成15年3月30日(日)午後2時

会場: アクロス福岡国際会議場

心肺蘇生法(BLS)の講習会も行う予定です。

市民公開講座 4

テーマ: **タバコを吸う人、吸わない人**ー**タバコと心臓病について考えるー**

日程: 平成15年3月30日(日)午後4時

会場: マリンメッセ大会議室

市民公開講座は何れも参加自由で無料です。
多くの方々のご来聴を歓迎いたします。

